

# 国際人道法を学ぶ

## ロールプレイ大会に参加

### 西南学院大学

10月6日に赤十字国際委員会（ICRC）クアラルンプール地域代表部がマレーシアで開催した「国際人道法ロールプレイ・アジア地域大会」に、西南学院大学（福岡市）の学生たちが出場し、その内容を報告するレポートを12月12日に公表した。

ICRCが行う国際人道法ロールプレイは、実際の武力紛争をモデルにした架空の状況下で、政府職員、人道支援機関の職員、武装集団、ジャーナリストなど、戦争の現場

におけるさまざまな役割を演じることで、紛争による被害者への対応などを学ぶ内容となっている。

参加者は3人一組でチームを組んで出場する規定になっており、今大会には国内から同大と東京大学（東京都文京区）のチームが参加したほか、マレーシア、タイ、シンガポール、インドネシア、ブルネイからも学生が参加に訪れた。

第1ラウンドでは、二つの

軍人役には管轄地に入れ  
てもらえるよう説得した



シミュレーションを実施。一つ目は武力紛争が発生したという想定のもと、人道支援機関の代表者として、ICRC関係者扮する「村人」や「軍人」などに質問や交渉を行

い、当事国の現状を把握するもの。この記者会見は、最終

実際に参加した同学科の2年生・山田果歩さん（西南学院高等学校出身）は、「被災した村人役からは、何を質問しても『水、食べ物、薬！』としか答えてもらえなかったり、『食べ物などを持っていない』と答えると泣き叫ばれたりしました。紛争下がいかに緊張状態であるのかを改めて感じた瞬間でした」と、感想を語った。

見事優勝を果たした。

同大会に同行した根岸講師は「ロールプレイでは厳密な法議論は求められておらず、現場に渦巻く多様な価値観の対立をどう調整するのかという手腕が問われます。学生たちは困難な状況に出くわしながらも、その問題に正面から取り組んでくれました」と、

このレポートは同大のウェブサイトで確認できる。



ロールプレイでは村人役は  
英語で聞き取りを行った